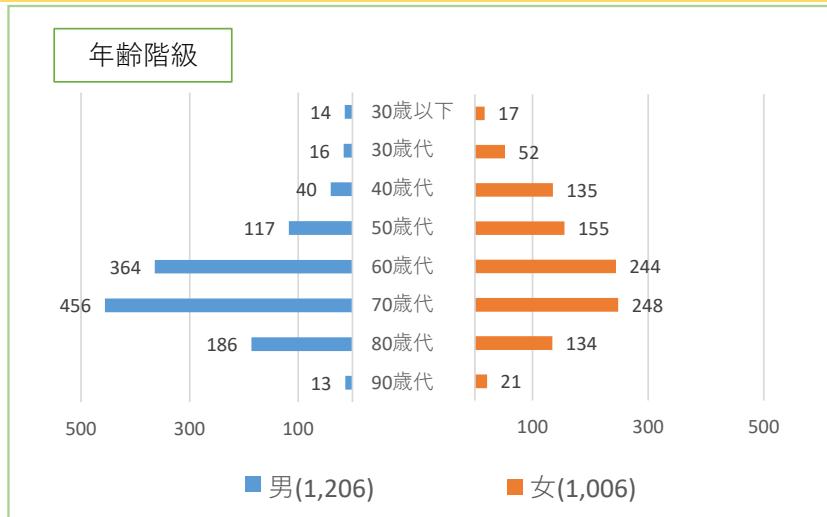
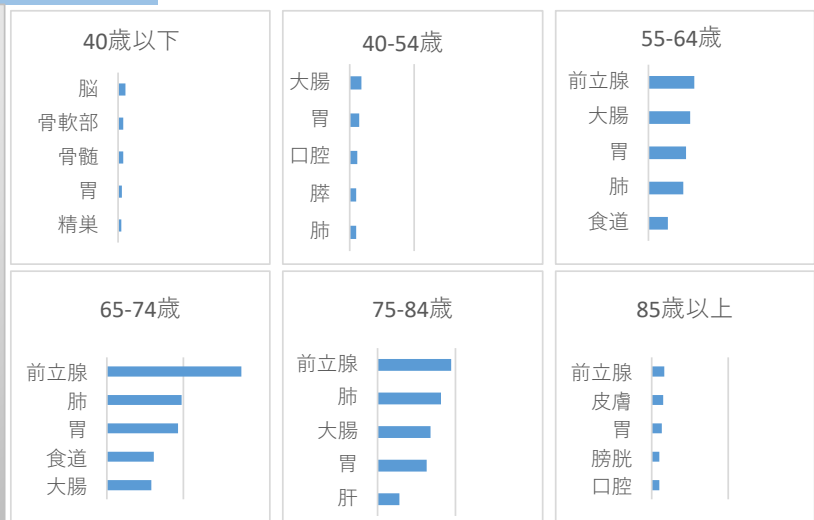
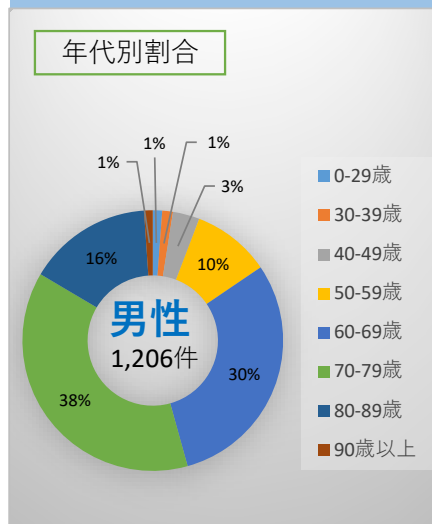


男女別登録数-年齢階級別

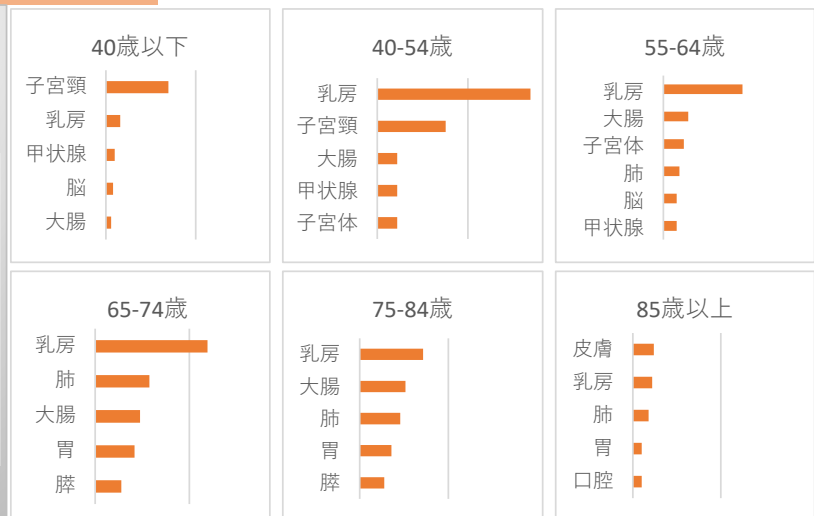
年齢階級別	登録数		
	男性	女性	合計
0-29歳	14	17	31
30-39歳	16	52	68
40-49歳	40	135	175
50-59歳	117	155	272
60-69歳	364	243	607
70-79歳	456	248	704
80-89歳	186	134	320
90歳以上	13	21	34
合計	1,206	1,005	2,211



年齢階級別登録数の上位5部位 -男性-

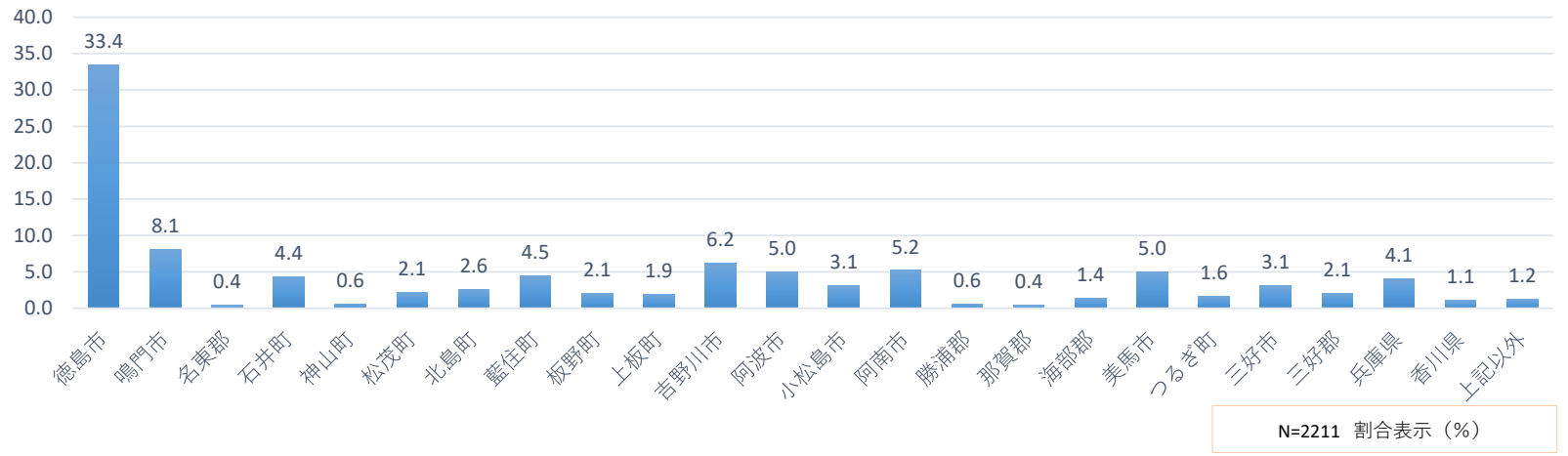


年齢階級別登録数の上位5部位 -女性-

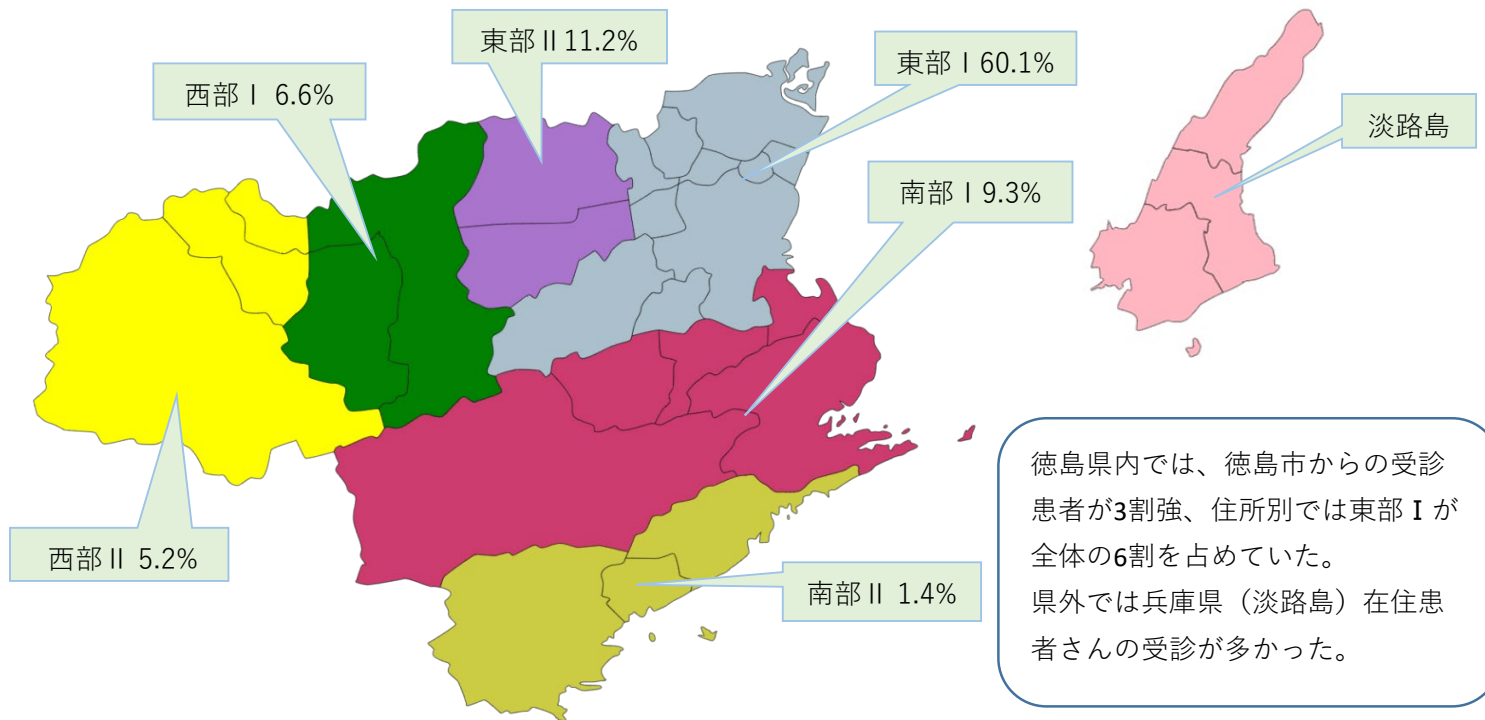


年齢階級別では男女ともに70歳代が多く、次いで男女とも60歳代が多い。60歳代以下は男性より女性の方が割合が多い。年代別割合は男性は60歳代と70歳代を併せると全年代の66%を占めている。部位別では40歳以下男性は、脳・中枢神経系が上位であり、55歳以上は前立腺がんが最も多かった。女性の40歳以下では子宮頸がんが多かった。40-84歳までにおいては乳房が最も多く、膵がんや甲状腺がんが上位に入っている。85歳以上は、男女ともに口腔がんが上位に入っている。部位別においては男女とも各性別特有のがんが上位である。

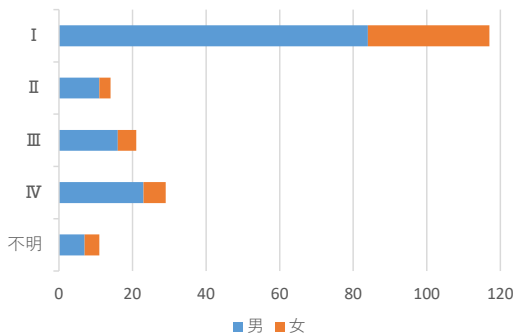
市町村別登録数（上皮内がんを含む）



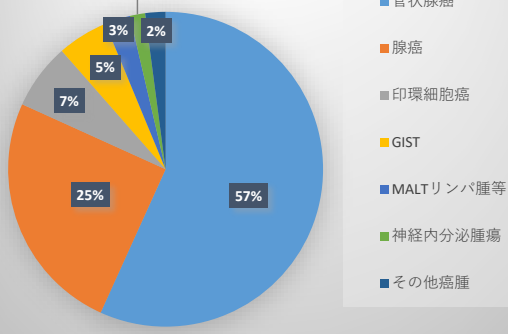
	住所	割合 (%)
東部Ⅰ	徳島市	33.4
	鳴門市	8.1
	名東郡	0.4
	石井町	4.4
	神山町	0.6
	松茂町	2.1
	北島町	2.6
	藍住町	4.5
	板野町	2.1
	上板町	1.9
	東部Ⅱ	吉野川市
阿波市		5.0
南部Ⅰ	小松島市	3.1
	阿南市	5.2
	勝浦郡	0.6
南部Ⅱ	海部郡	1.4
西部Ⅰ	美馬市	5.0
	つるぎ町	1.6
西部Ⅱ	三好市	3.1
	三好郡	2.1
県外	兵庫県	4.1
	香川県	1.1
	上記以外	1.2
	総数	100.0



ステージ別男女別



組織型

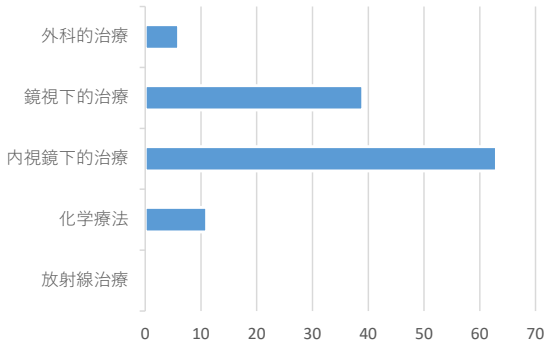


治療前ステージ別登録数

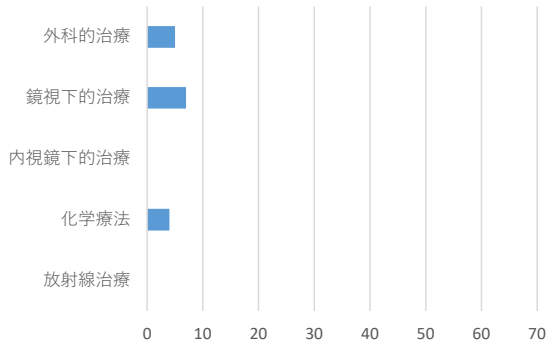
ステージ	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	不明	合計
登録数	117	14	21	29	11	192

ステージ別治療方法

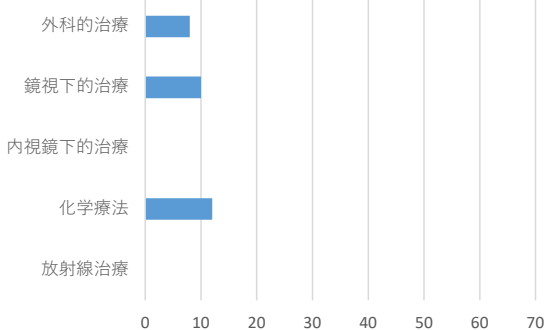
Ⅰ期



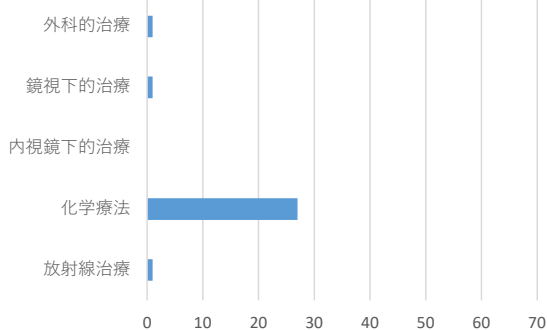
Ⅱ期



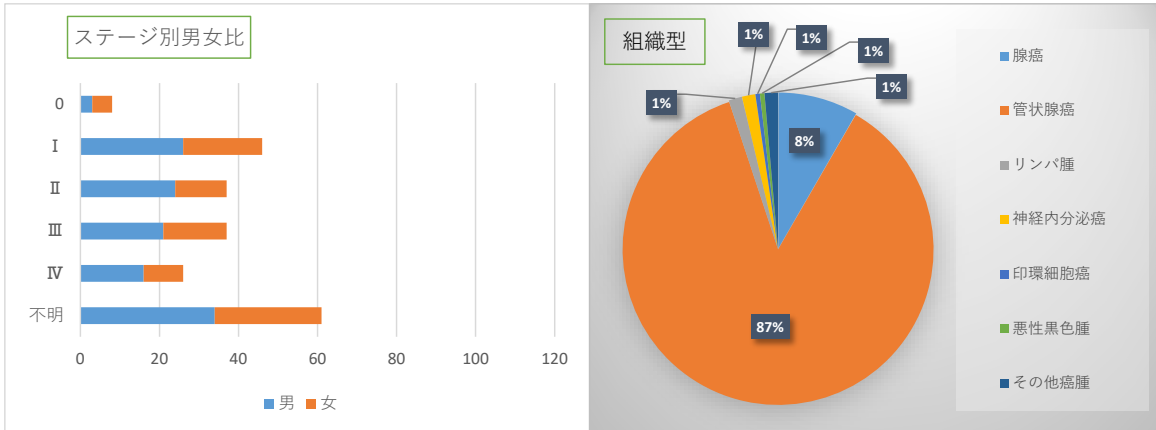
Ⅲ期



Ⅳ期



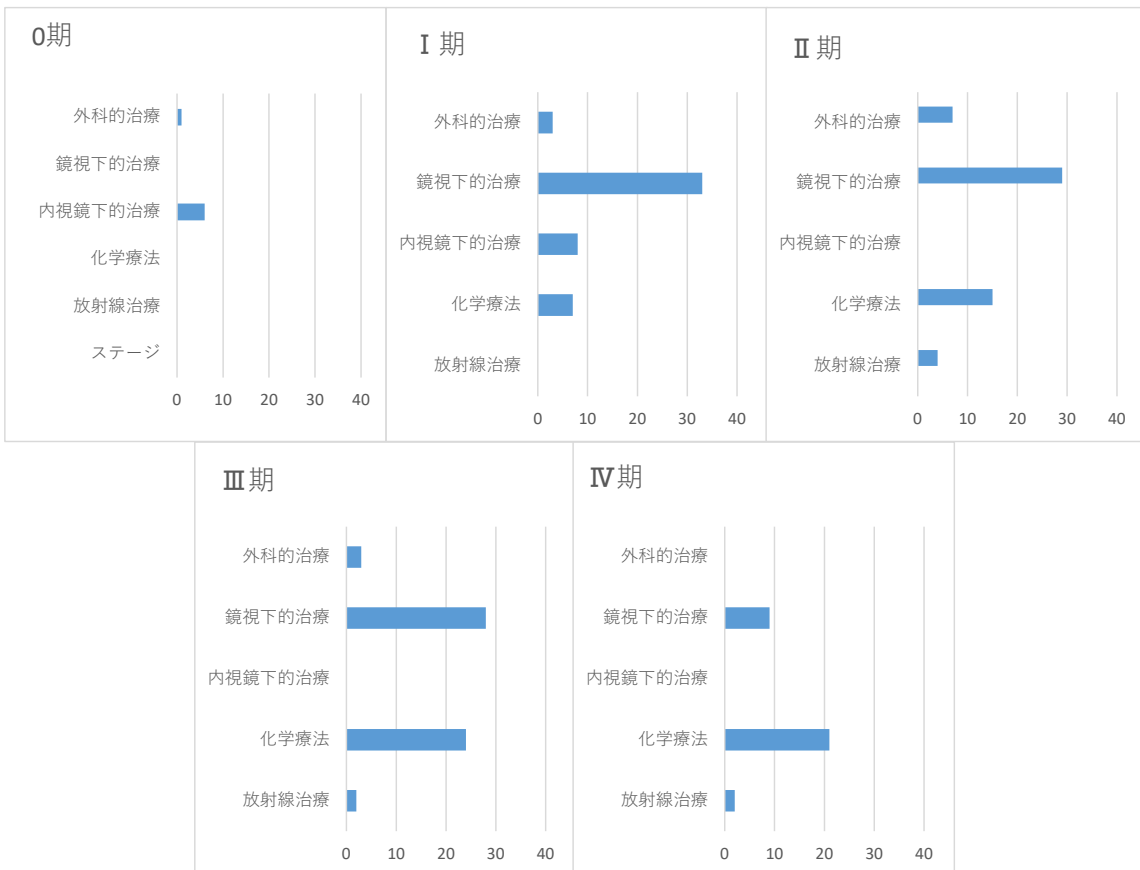
胃がんは、男性141件、女性51件で総数は192件、男性が女性の2.8倍であった。
 ステージ別では、Ⅰ期が最も多く、全体の約6割を占める。組織型は管状腺癌が多く、腺癌とあわせると8割強であった。ステージ別の治療方法では、Ⅰ期では「内視鏡治療」「鏡視下治療」が多く、Ⅱ～Ⅲ期は「手術」「化学療法」治療が多く、Ⅳ期は「化学療法」治療が概ね多い結果であった。



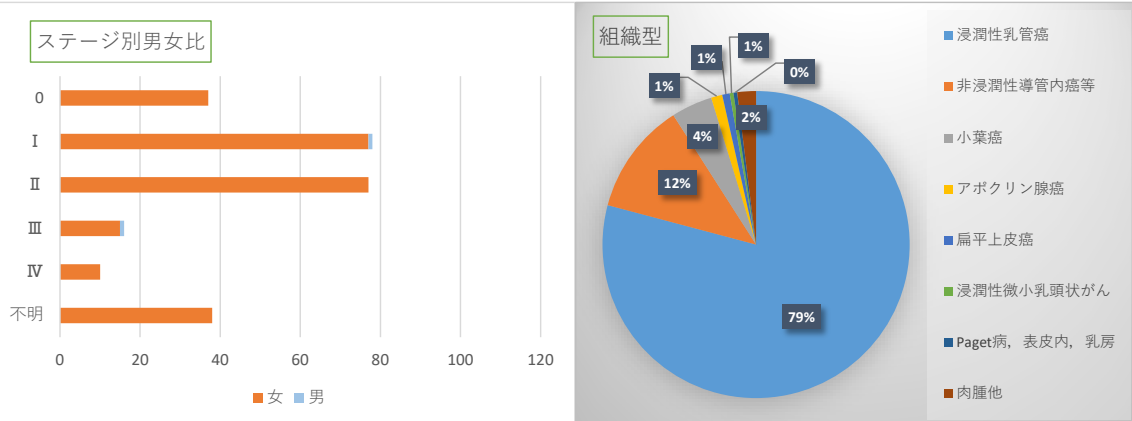
治療前ステージ別登録数

0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
8	46	37	37	26	62	216

ステージ別治療方法



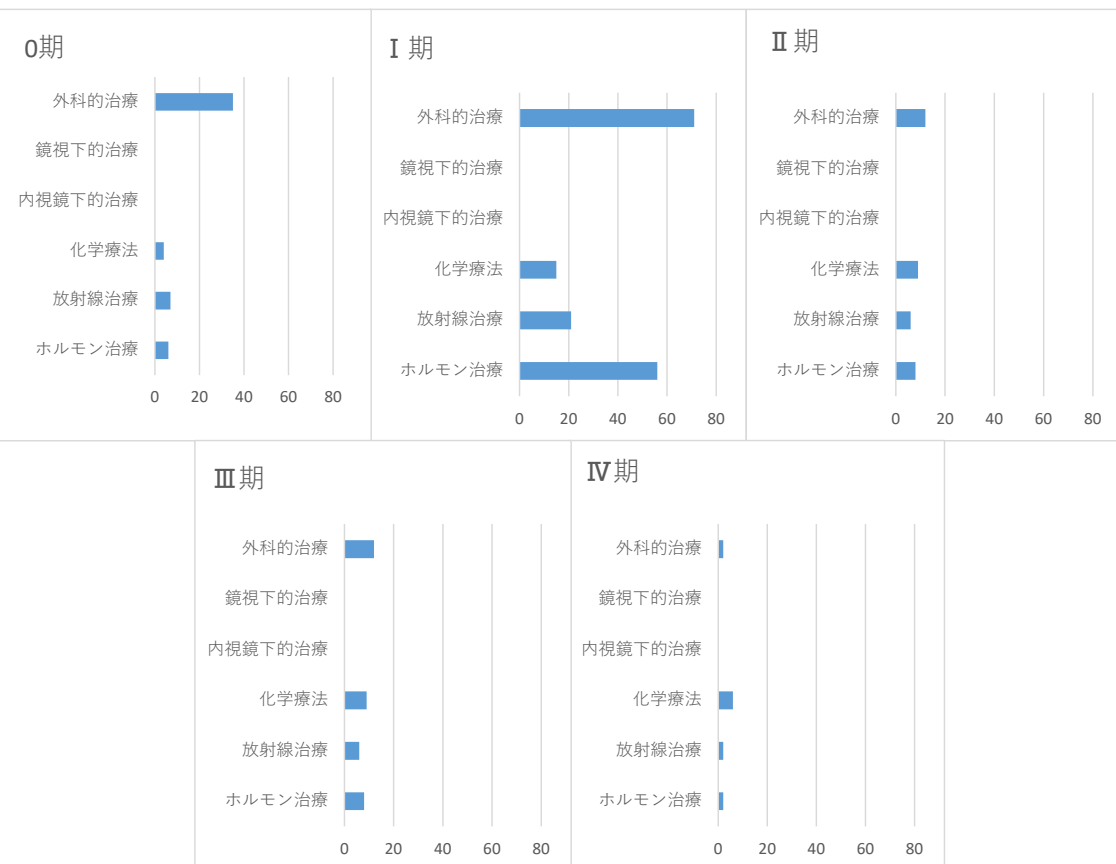
大腸がんは、男性は124件女性は92件で総数は216件、男性が女性の約1.4倍であった。
 組織型では、管状腺癌が、全体の8割強を占め、次いで腺癌が多い。神経内分泌腫瘍も少数ではあるが症例があった。ステージ別はI期が多く、0期以外は、ほぼ大きく変わらない数字であった。ステージ別治療方法は、0期では「内視鏡治療」、I期・II期では「鏡視下治療」が多く、III期は「鏡視下治療」「化学療法」がほぼ同数であった。IV期では、「化学療法」が大半を占めていた。



治療前ステージ別登録数

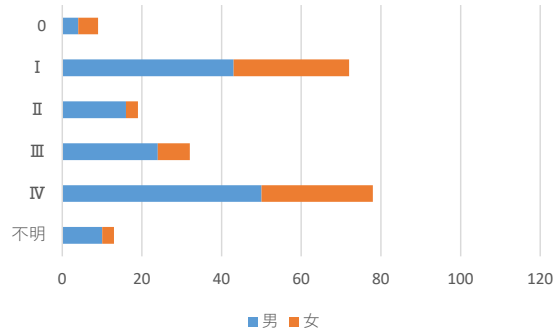
0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
37	77	77	16	10	38	256

ステージ別治療方法

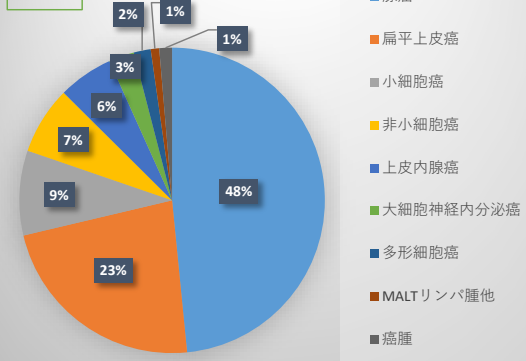


乳がんは、総数256件、概ね女性の登録であった。
 組織型では、浸潤性乳管癌が、全体の8割弱を占め、次いで非浸潤性導管内癌、小葉癌の症例があった。治療前ステージ別はI期、II期が多く、次いで、不明（再発症例・他施設からの継続治療）が多かった。ステージ別治療方法は、0期で「外科的治療」I～III期で「外科的治療」が主であった。III期は「外科的治療」「化学療法」がほぼ同数であった。IV期は、「化学療法」が多く占めていた。乳がんにおいてはすべての治療方法が実施されていることが示されている。

ステージ別男女比



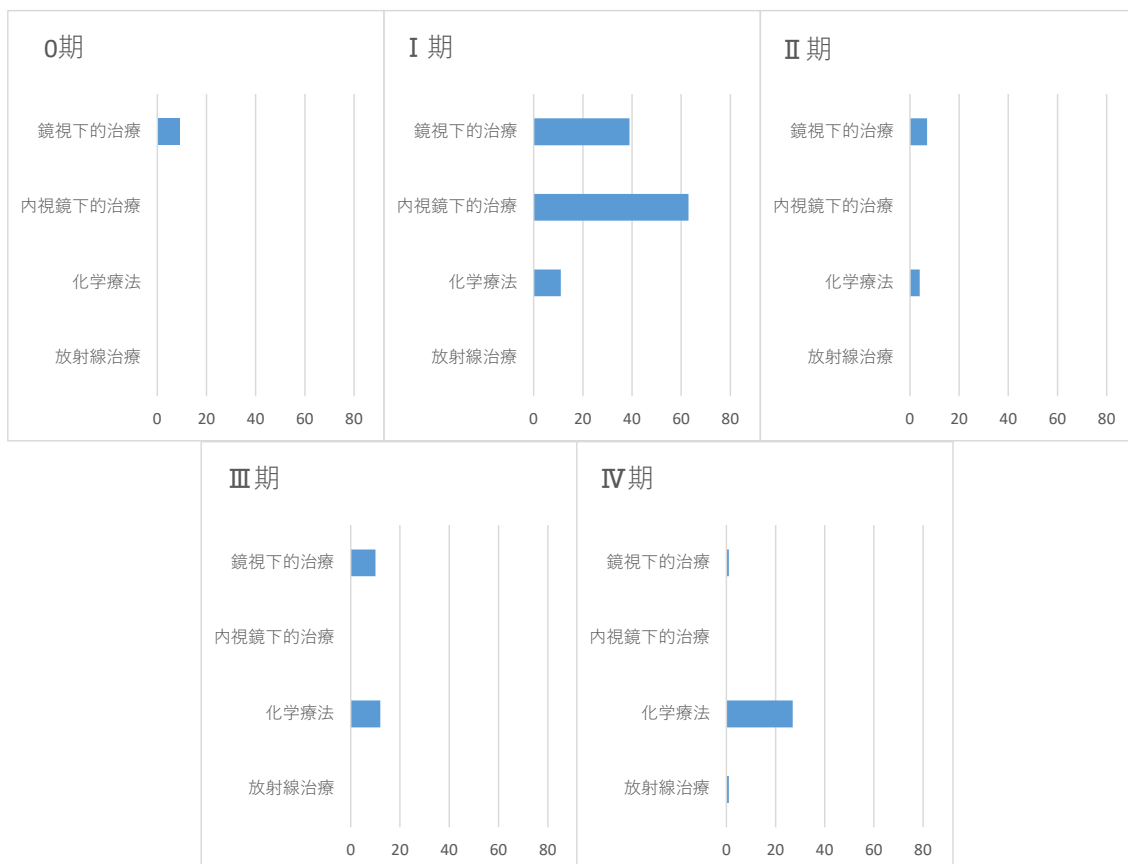
組織型



治療前ステージ別登録数

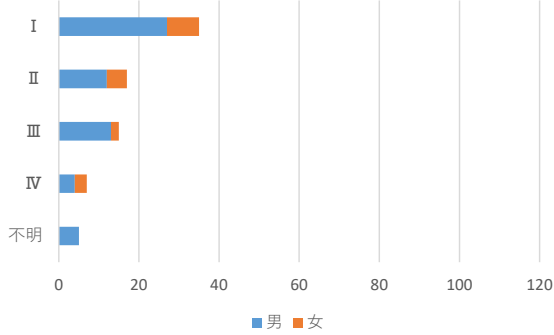
0期	I期	II期	III期	IV期	不明	合計
9	72	19	32	78	13	223

ステージ別治療方法

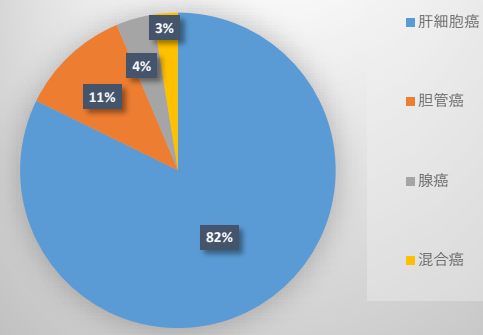


肺がんは、男性は147件、女性は76件であり、男性が女性の約2倍であり、総数223件であった。治療前ステージ別登録数では、I期とIV期が最も多かった。組織型では腺癌が全体の5割弱を占め、次いで扁平上皮癌、小細胞癌の症例があった。ステージ別治療方法は、0期では「鏡視下治療」I期は「内視鏡治療」「鏡視下治療」、II期では「手術」「化学療法」が半々となっている。IV期は「化学療法」が多くを占めていた。肺がんにおいては、「手術」と小細胞癌に有効な「化学療法」治療が多く実施されている。

ステージ別男女比



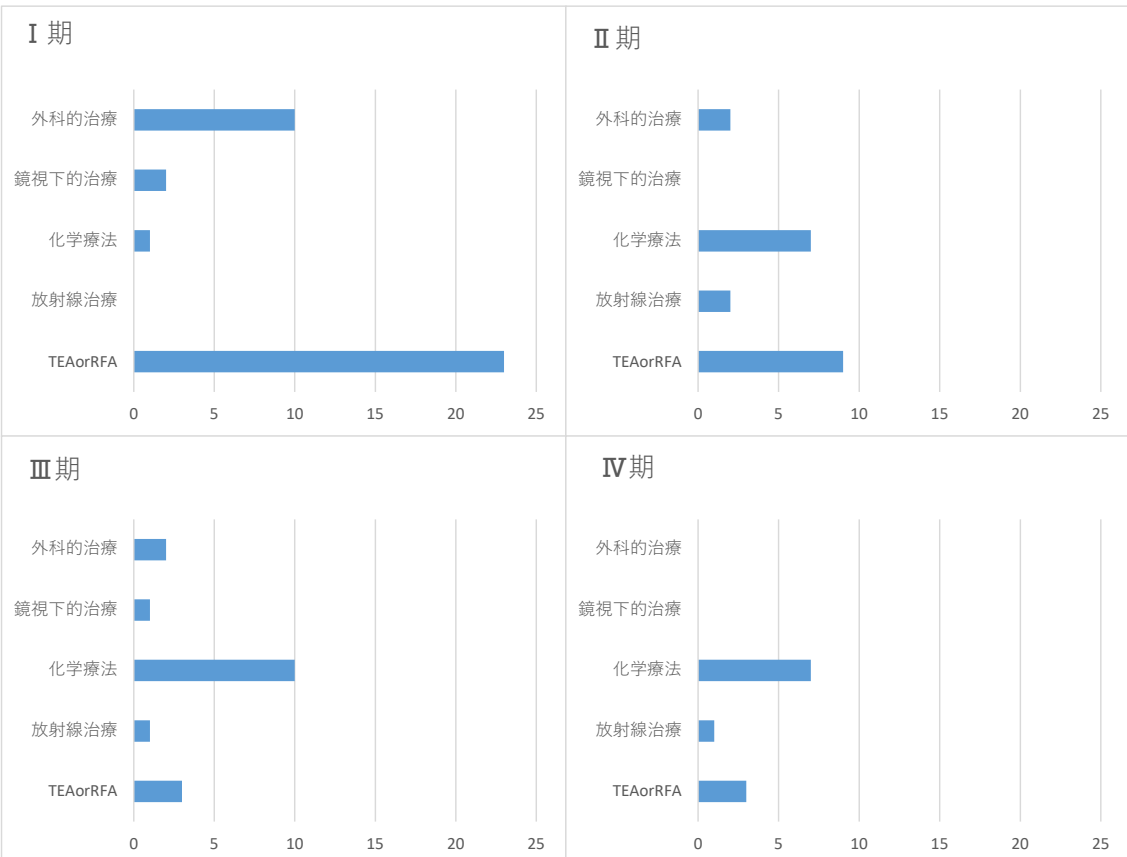
組織型



治療前ステージ別登録数

Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	不明	合計
35	17	15	7	5	0

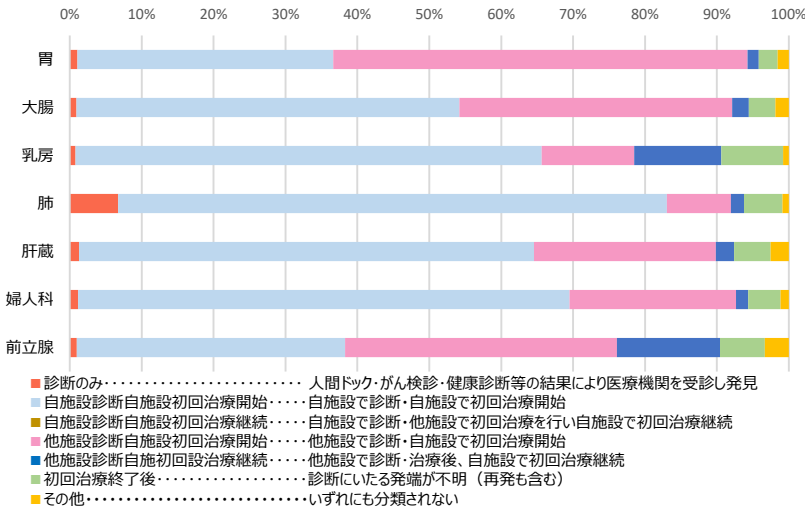
ステージ別治療方法



肝がんは、男性は61件女性は18件で総数は79件、男性が女性の約3.4倍であった。
 組織型では、肝細胞癌が、全体の8割強占め、次いで胆管癌が多い。神経内分泌腫瘍も少数ではあるが症例があった。ステージ別ではⅠ期が最も多かった。ステージ別治療方法は、Ⅰ期では「手術」「TAEとRFA」が多く治療されていた。Ⅱ期、Ⅲ期は「化学療法」と「TAE・RFA」が多かった。Ⅳ期では、「化学療法」が大半であった。5大がんの中では、男女比では男性罹患数が多く、徳島県は肝細胞癌が死亡数がワースト1であった。

症例区分

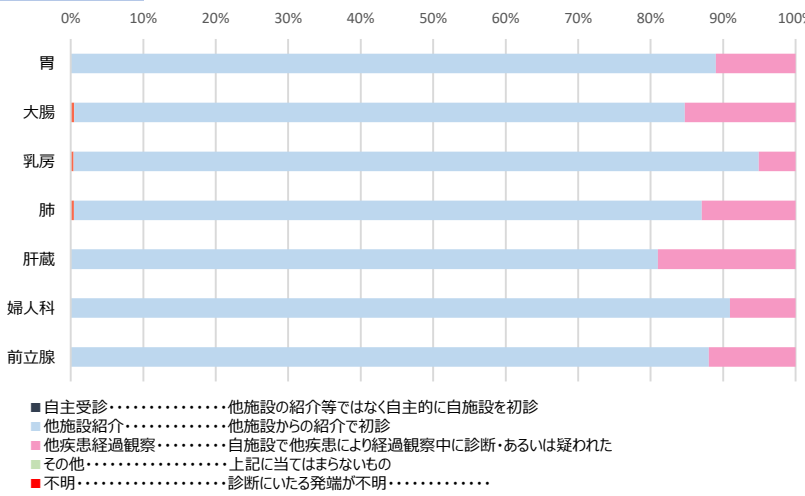
当該腫瘍の診断および初回治療の過程に、自施設でどのように関係したかを判断



	診断のみ	自施設診断自施設初回治療開始	自施設診断自施設初回治療継続	他施設診断自施設初回治療開始	他施設診断自施設初回治療継続	初回治療終了	その他
胃	1~3	68	0	110	1~3	4~6	1~3
大腸	1~3	115	0	82	4~6	7~9	4~6
乳房	1~3	166	0	33	31	22	1~3
肺	15	171	0	20	4~6	12	1~3
肝臓	1~3	50	0	20	1~3	4~6	1~3
婦人科	1~3	121	0	41	1~3	7~9	1~3
前立腺	1~3	78	0	79	30	13	7~9

来院経路

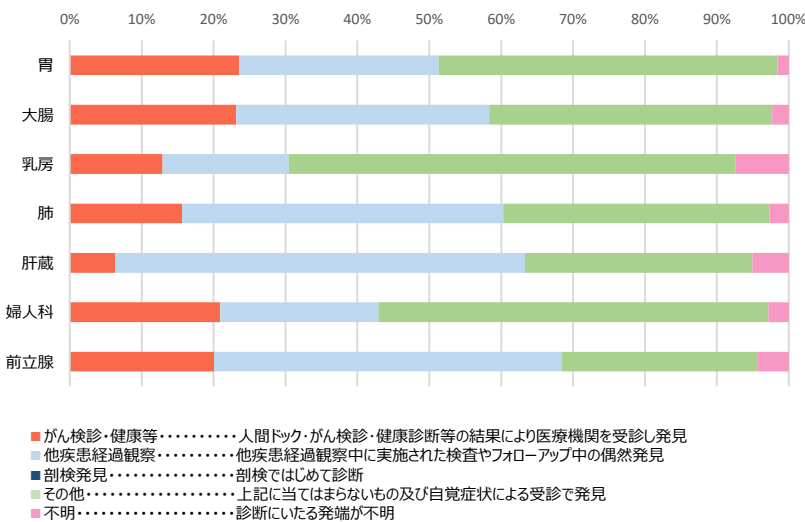
当該腫瘍の診断・治療のため、どのような経路によって自施設を受診したのか把握



	自主受診	他施設紹介	他疾患経過観察	その他	不明
胃	0	170	21	0	0
大腸	1~3	182	33	0	0
乳房	1~3	242	13	0	0
肺	1~3	194	29	0	0
肝臓	0	64	15	0	0
婦人科	0	161	16	0	0
前立腺	0	184	25	0	0

発見経緯

当該腫瘍が診断される発端となった状況の把握



	がん検診・健康等	他疾患経過観察	剖検発見	その他	不明
胃	45	53	0	90	1~3
大腸	50	76	0	85	1~3
乳房	33	45	0	159	19
肺	35	100	0	83	4~6
肝臓	4~6	45	0	25	4~6
婦人科	37	39	0	96	4~6
前立腺	42	101	0	57	7~9

発見経緯

がん検診や人間ドックを受けることにより、早期発見に繋がっているかをみるための項目です。主要7部位のほとんどが「その他」に含まれる自覚症状による受診が多くみられた。肺がん・前立腺がんにおいては、様々な要因での経過観察期間も含まれるため他疾患経過観察中での発見が多くみられた。早期発見に繋がると考えられる「がん検診等」での発見が「他疾患経過観察中」「その他」を下回る結果となった。

症例区分

主要7部位すべてにおいて初回治療に関りがみられ、都道府県がん診療連携拠点病院の特性が顕著に表れている。このグラフには表示されていないが「自施設診断自施設治療継続」（自施設で診断し、他施設へ治療依頼）が0件であったことにもがん診療連携拠点病院が地域のがん治療を担っていることがわかる結果となった。

来院経路

他施設からの紹介受診における割合が高く、この項目においても都道府県がん診療連携拠点病院の特徴が表れている。